

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 西濃高等特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年2月20日(木) 13:30～15:30
- 3 開催場所 西濃高等特別支援学校 実習棟3 会議室 (参集による開催)
開催にあたり、委員による2年生学習成果発表会の参観を実施した
- 4 参加者

会 長	大橋 奈麻輝	大垣市社会福祉協議会 事務局長
副 会 長	山下 美智恵	西濃障がい者就業・生活支援センター 所長
委 員	粥川 加奈子	大垣市議会議員
	虫賀 恭子	大垣商工会議所 女性会 会長
	柳瀬 芳仁	大垣青年会議所 理事長 (欠席)
	加藤 千恵美	大垣市くすのき苑 所長
	上田 哲弘	日新地区自治会連合会 会長
	吉田 佳子	本校 PTA会長
学 校 側	樽井 良和	校長
	蒔田 穰	教頭
	井上 裕詞	事務長
	篠田 裕之	部主事
	曾根 良子	教務主任

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 令和6年度 自己評価・学校関係者評価について
- (2) スクール・ポリシーについて
- (3) 校則の見直し(通学靴)について
- (4) 2年生 学習成果発表会「総合的な探究の時間(私たちとSDGs)」参観
- (5) 意見交換

6 委員からの意見

- 意見1: 私たちの時代は黒板、目と目、顔と顔を突き合わせてやってきた。情報機器を取り扱うようになり、目と目を合わせる機会が少ないのかと感じた。コミュニケーションが苦手なのはこういう時代だからかと思った。
- 意見2: 授業参観など、貴重な機会をいただいた。生徒の発表や学ぶ姿が素晴らしかった。生徒一人一人への教員のサポートが大きかったと思う。親御さんにも寄り添いをお願いしたい。
- 意見3: 特別支援学校の授業等を参観したのは初めてであった。ここにきて教員の苦勞を感じた。いずれ社会に出る子どもたち、いろんな悩みを抱えるだろうから時々職場を

覗いてやってほしい。特に工場、作業現場は大変危険であり、事故のないように願っている。

意見 4 : 大変レベルが高い生徒たちと感じた。こういう子だから就職もできるのか。今後風当たりもきついかもかもしれないが、頑張ってもらいたい。障がい理解が図られ、だんだん良くなっているが、社会の中でまだまだ置き去りにされているかもしれない。ぜひ社会全体で支えあう世の中になってほしい。

意見 5 : 各種通信が保護者に直接「すぐー」で送ってもらえ、学校の活動がタイムリーによくわかる。子の自立を促す共通目的をもっているが、PTA活動に参加される方が少なく、保護者同士のつながりが薄く感じる。行事参加の機会が増え、保護者同士で集まって話せる機会が増えると良い。

意見 6 : SDGs に関する学習成果発表会では、計画的に考えて、企業にも調査することができており素晴らしかった。3年生、次年度職員として採用させてもらった。つながりを大切にしていきたい。

意見 7 : 校則改正について、生徒たちが自発的に出てきたことを明らかにして、保護者・学校の意見を取り入れて良い。通学靴について自由選択できるのは良いこと。

意見 8 : 立派な教育目標や取組であっても、実態はどうか。高校卒業して就職した生徒の中には、礼儀や礼節ができていない生徒が多いと感じる事があった。立派なことをやっているとしても、子どもには浸透していないかもしれない。

7 会議のまとめ

第3回学校運営協議会では、生徒・保護者の学校評価アンケートの結果を踏まえて、令和6年度の本校の学校運営にかかる自己評価を行い、報告とともに質疑応答を行い、委員それぞれの視点から意見を得た。また、「スクール・ポリシー」及び「校則の見直し」については、参加した委員全員から承認が得られた。

議事のほか、2年生学習成果発表会の参観により、本校生徒の実態が理解されるとともに、委員の発表会感想や生徒たちへの期待を直接生徒に述べられ、生徒にとって外部有識者からの貴重な評価を得られる機会となった。

学校運営協議会委員の意見を踏まえ、各教科や専門コースでの学習や現場実習等のカリキュラムの整理を継続して行い、本校において身に付けるべき事項を整理した「校訓具体図」と学習材を結び付け、生徒の自己実現を目指した「セルフ・プロデュースノート」として昇華させるために、学習内容の改善と構成の確立を図っていく必要があることを確認した。

最後に、今年度の本会への参加・協力に対して各委員への謝意を伝え、引き続き、地域との連携や各種機関の協力を得るため、各委員の助力をいただくことを求め散会した。